



JAみやぎ仙南  
生産販売部米穀課  
☎0224-55-1590  
☎0224-63-3131(角田)

## のじょうずな使い方!!

菌、リゾプス菌、トリコデルマ菌)に高い予防効果。

- ばか苗病・もみ枯細菌病・苗立枯細菌病・いもち病・褐条病・苗立枯病(フザリウム)
- もみ表面に付着、増殖し、病原菌の増殖・侵入を防ぎます。
- 温湯消毒法との組合せにより、さらに安定した防除効果が期待できます。

作業手順

### 1. 塩水選

※罹病種もみを取り除くため塩水選は必ず実施しましょう。

- 浮いた種もみは使用しない。

- 沈んだ良質な種もみだけを選ぶ。
- 割れたり、傷ついている種もみは使用しない。

### 2. 水洗い

### 3. 水切り

### 4. 袋づめ

- あら目のネット袋等に余裕をもたせて詰める。(水・薬液がゆきわたるように)

### 5. 水づけ(浸種)

- 水温10~15℃で14~7日間程度。(品種ごとの推奨条件で)
- 2~3日に1回、水を全部交換する。
- 化学農薬を使用した種もみとは一緒に水づけしない。
- ※水づけが不十分な場合、出芽不揃いの原因となるので、特に注意する。

種別	比重	比重計値	水10ℓ当りの量	
			食塩	硫安
うるち種	1.13	17	2.1kg	2.7kg
もち種	1.08	11	1.2kg	1.5kg

※しっかりと水に溶かして実施する事。

### 塩水選「比重の目安」

- 比重計を使った場合

## 6. 薬液づくり (200倍液)

200倍液の作り方		種もみ量の目安
水量	タフブロックの量	
10ℓ	50g	5kg
20ℓ	100g	10kg
40ℓ	200g	20kg

### ※安全使用上の注意

- 1 使用後の残液や容器の洗浄水は、直接河川に流さず適切に処理する。
- 2 消毒した種もみは食用や家畜の飼料には絶対利用しない。
- 3 本剤の有効成分は生菌のため、開封後は全て使いきる。返品不可。(有効期限2年)

## 7. タフブロック処理 処理方法の①か②のどちらかで処理する。

### 処理方法① 催芽前処理

ここで処理した場合は、**催芽時処理は不要です。**

- 水温は10~15℃にする。
- 低温(10℃未満)では、もみの発芽能力が低下する。
- 薬液づけの際は、十分に浸るようによくゆすりながら沈め、あとは静置する。
- 液を攪拌せず、種もみをゆっくり取り出す。(表面の菌がとれないよう)
- ※底部に粉が沈殿しますが、効果などに影響ありません。
- 薬液処理が終わったもみは洗ったり乾燥したりしない。



薬液の反復使用はしない。

### 処理方法② 催芽時処理

ここで処理する場合は、**催芽前処理は不要です。**



※ハトムネ催芽機をご使用でしたら催芽時処理がおすすめです。(若干泡が立ちますが問題ありません)

- 薬液をよく混ぜた後、種もみが薬液にきちんと浸るように「もみ袋をよくゆすり」、薬液が中までよく行き渡るようにする。
- 種もみの取り出しはハトムネ催芽機の循環を停止後、数分静置してからゆっくり取り出す。

## 8. 芽出し(催芽)①催芽前処理の場合

- 30℃程度でハト胸状態まで芽出しする。
- 催芽後のもみの乾燥は陰干しとし(天日で菌が死滅)、過度の乾燥は避け、保管せず速やかに播種する。

注 35℃以上の温度で催芽した場合は細菌病の発生率が高くなります。

良い 正しいハト胸催芽

### 適用病害と使用方法

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用時期	使用回数	使用方法	タラロマイセスフラバスを含む農薬の総使用回数
稲	褐条病	200倍	催芽時	-	24時間種子浸漬	-
	ばか苗病					
	いもち病					
	枯細菌病		催芽前	24時間~48時間種子浸漬		
	もみ枯細菌病					
	枯病(フザリウム菌)					
苗立枯病	-	-				
枯病(リゾプス菌)						
枯病(トリコデルマ菌)						

-: 使用回数は特に定めない

## 10. 出芽

●育苗器を用いて30℃程度で出芽が揃うまで加温する。

- 無加温出芽(シート被覆など)の場合、温度条件や気象に左右されやすく、低温・多湿などによる障害を受けやすくなります。上記の通り温度管理するよう努めましょう。
- プール育苗の場合の入水や、他の薬剤の使用は緑化期以降とする。

## 9. 播種

- 必要以上に早い時期に種まきすると低温障害などが発生する恐れがあるので、田植日から逆算して適切な時期に作業する。  
目安: 稚苗/田植え前20~25日  
中苗/田植え前30~35日
- 他の微生物資材は使用しない。
- 粘土質などの水はけが悪い培土は使用しない。
- 播種時の消毒に、ダコレート水和剤・ベンレート水和剤は使用しない。(有効成分が死滅)

芽出しから出芽期までの温度と水分管理が特に重要です!!

